

【神崎市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

神崎市では、GIGAスクール構想に基づき、教育環境のデジタル化を進めている。この取り組みは、全ての児童生徒に対して1人1台の端末を配備し、ICT（情報通信技術）を活用することで、多様な子どもたちが個別最適化された学習に取り組める環境を構築し、Society5.0時代で活躍できる資質・能力を育成することを目的としている。

具体的には、1人1台端末及び高速大容量の通信ネットワークを通じて、多様な状況にある児童生徒の持続的な学びを保障する。児童生徒の発達段階や能力、状況に応じて様々なデジタル技術に触れることで、基本的な知識やプログラミング的思考、情報モラル等に関する資質・能力を段階的に育成する。また、獲得した知識を活用できる能力を併せて向上させ、児童生徒が主体的に学びを深められるような教育を目指す。

2. GIGA第1期の総括

（1）現状

全児童生徒に1人1台端末を配備し、日常的に1人1台端末を活用できるように通信ネットワークの整備を行ってきた。また、1人1台端末活用の推進のためには、児童生徒だけでなく教職員や保護者の協力も必要不可欠であるため、1人1台端末持ち帰りに関する取扱いを定めて周知している。学校においてデジタルドリル等の教材活用やタイピング能力向上のための練習時間を設ける等、積極的な活用の推進の他、教職員の情報リテラシー向上や保護者との連絡アプリ導入による業務改革が一定の成果を出している。

（2）課題

- ・1人1台端末・ネットワークの課題として、1人1台端末の老朽化やセキュリティ機能による制限などから、立ち上がりに時間がかかったり、一斉にインターネットにつなげようとする速度が遅くなったりする現象を確認している。
- ・学校や教職員のデジタル習熟度によって1人1台端末利用の頻度にバラつきがあり、全児童生徒の日常的な1人1台端末活用には至っていない。
- ・学習用の1人1台端末を学習以外の用途に使われることへの懸念がある。セキュリティによる制御を行う場合、学習のために必要な機能やWebページが巻き込まれて使用できなくなることがあるため、対処に十分な知識が必要となる。
- ・1人1台端末の故障等によりローカルデータへのアクセスができなくなる場面がある。現状では必要最低限のデータの利用であり影響は小さいが、将来的に利用幅が大きくなるほどデータの消失による影響が大きくなるため、データの保存方法について基準が必要となる。

3. 1人1台端末の利活用方策

課題を踏まえ、以下のような取組により改善を図る。

(1) 1人1台端末の日常的な利用

- ・ネットワークの改善及び適切な設定により、インターネット利用の高速化や端末起動時間を短縮させ、日常的な1人1台端末利用への意欲を向上させる。
- ・日常的な1人1台端末活用を進めるため、児童生徒だけでなく、教職員の1人1台端末利用拡大を推し進める。各学校の教育情報化推進リーダーを中心に市内の学校や全国の事例を含め、有用な事例の情報共有を行う。
- ・児童生徒だけでなく教職員もICTへ慣れ親しむことで積極的な活用につながるため、研修による理解度の向上や、課題の収集とICTによる解決（学習内容を動く絵で見せたい等）に取り組む。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実

- ・児童生徒が課題に対し、1人1台端末を利用して自ら調べ、考えをまとめて発表を行う、主体的な授業づくりを目指す。
- ・児童生徒同士、又は教員と積極的にやりとりを行い、互いの考えに触れることで自身の考えを見直し、学びを深めるための協働アプリ導入を検討する。
- ・教員が児童生徒の授業・課題進捗を把握し、効果的な授業プランを作成、実施できる体制をつくる。

(3) 1人1台端末を利用した学びの保障

- ・子どもがいつでもどこでも主体的に学ぶことができるようにするためにも、クラウドを活用することを前提とした1人1台端末使用方法を浸透させる。クラウドのメリットだけでなく注意すべき点についても学べるよう取組む。
- ・ネットワークやセキュリティについて、効果的な学習に必要なものは利用しやすく、学習に必要ないものや危険が生じやすいものは利用できなくする区分をはっきりとさせ、かつ必要なものが利用できない状態にならないよう、最新の情報を常に収集し、学習環境の改善を図る。
- ・ICT支援員への依頼内容や対処の結果を学校間で共有し、起こり得る課題とその解決策を把握することで、障害等への対処を素早く行える体制を確立する。
- ・授業での利用だけでなく、特別な支援や対応を要する児童生徒等の実態に合わせた活動にも積極的に利用していく。